

特集 兵庫県における酒米の生産振興

1 兵庫県における酒米の生産振興

1 酒米生産の現状

兵庫県における酒米生産は全国一の生産量を誇り、品質においても良質な清酒の醸造に欠くことのできない「もと米」として全国の清酒業界から高い評価を受けている。ちなみに1999年産の酒米作付面積は、6,748haで全国19,780 haの34.1%、生産量は26,477tで、全国の88,982tの29.8%となっており、出荷量のうち約52%が県外に移出されている。

現在8品種が醸造用玄米産地品種銘柄に指定されている。中でも「山田錦」「兵庫北錦」「兵庫夢錦」の3品種は本県で育成され“兵庫の酒米三錦”として本県の主力品種となっている。

2 現在の酒米生産の取り組み

酒米は一般食用米と違って供給過剰になった場合、価格の下落だけでなく、流通そのものに支障をきたすため、需要に基づいた契約生産が必須である。

最近、清酒の需要が景気の低迷と消費者の嗜好の

変化により減退する傾向にある。他府県でも酒米の生産振興が強化されており、本県の酒米づくりは、一層の良質酒米の生産が求められ、需要に見合った安定供給と新たな需要開拓がますます重要となっている。

現在、「兵庫北錦」に代わる耐冷性品種の早期実用化のため新系統の試作、醸造試験に取り組んでいるところである。また酒米の産地では、関係者との連携のもとに次に紹介するように、それぞれの地域にあった品質改善と安定生産への努力が重ねられている。

さらに、特徴ある酒造りにより清酒の需要拡大をねらいとして、産地と酒造家の連携のもとに「山田穂」「神力」「但馬強力」等昔の品種の復活や紫黒米を用いた新たな取り組みが芽生えている。

西田 清数（中央農技・作物部）